

文化財センター通信

【かぎぐるま】

風車

第 38 号

平成19年10月31日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

京奈和自動車道橋本道路発掘調査報告会

考古資料から見た 紀ノ川上流域の弥生文化

平成19年9月8日（土）開催

◆報告会の概要◆

一般道路24号京奈和自動車道は京都く奈良く和歌山を結ぶ延長約120kmの高規格幹線道路です。橋本道路は、橋本市隅田町真土から同市高野口町大野までの約11.3kmの区間で、平成19年8月2日に全線が開通しました。

当センターでは平成9年から16年まで、この道路建設に伴う遺跡（垂井たるい・女房が坪遺跡・野口遺跡・北馬場遺跡・柏原遺跡）の発掘調査を実施し、昨年度、その整理作業を終了しました。

今回の報告会は、橋本市教育文化会館において、弥生時代のお墓である方形周溝墓と竪穴住居がまとまって発見された柏原遺跡の調査成果を中心に「考古資料から見た紀ノ川上流域の弥生文化」と題して開催しました。また、発表者全員による討論会の他に柏原遺跡の出土遺物展示も行いました。

参加者数は90名をかぞえ、県外からも多数ご参加いただき和歌山の弥生文化への関心の高さを伺うことができました。

はじめに、徳島文理大学教授の石

－第38号の主な内容－

1. 京奈和自動車道橋本道路発掘調査報告会
『考古資料から見た
紀ノ川上流域の弥生文化』
2. 紀州の歩み終了
3. 【コラム考古学の散歩道14
伊都郡の古代寺院と瓦】



■石野 博信氏

野博信氏に記念講演をお願いし、土器や石器等の遺物、住居形態等の分布からみた他地域との交流を中心に幅広いお話をいただきました。

つづいて基調報告では、市立五條文化博物館の前坂尚志氏と橋本市教育委員会の大岡康之氏が、これまで



■展示風景

の調査成果をもとに、各市域で弥生時代の遺跡がどのように移り変わっていきのか等を説明されました。当センターからは、井石が柏原遺跡の調査報告について、土井が紀ノ川流域全体の弥生文化について報告しました。

討論会は、主として柏原遺跡が営まれた弥生時代中頃の墓制と地域間交流をテーマに進められました。柏原遺跡では、方形周溝墓から出土した土器のうち、河内地域で作られたものが10%以上を占めるようです。

この状況は、他の紀ノ川流域の遺跡と比べ特異であり、当時の地域間交流について考えさせられる興味深い

報告内容と報告者の顔

記念講演

徳島文理大学教授 石野博信氏
「紀ノ川から大和へ-弥生人の軌跡-」

基調報告

(財)和歌山県文化財センター 井石 好裕氏
「柏原遺跡の発掘調査」

市立五條文化博物館 前坂 尚志氏
「五條市域の弥生文化」

橋本市教育委員会 大岡 康之氏
「橋本市域の弥生文化」

(財)和歌山県文化財センター 土井 孝之氏
「紀ノ川流域の弥生文化」

内容でした。議論はさらに後期の高地性集落や古墳時代への変革にまで進み、弥生時代の大きな流れがよく分かる討論会となりました。

今回の講演や報告・討論会を経て、紀ノ川上流域の弥生人が営んだ生活とその特徴がどのようなものであったかが少しずつ明らかになり、より深い議論への土台ができあがってきたように思います。今後の研究の進展と新たな発掘調査によって当地域の弥生文化のさらなる解明が望まれます。

(津村・佐々木)



■討論会風景



■井石 好裕氏



■土井 孝之氏



■大岡 康之氏



■前坂 尚志氏

報告会 アンケート結果

今回の報告会で、参加者の皆様にアンケートに回答していただきました。今後の報告会・シンポジウム等がより充実したものに
なるよう、皆様の貴重なアンケート結果を報告したいと思います。

(*印=報告者コメント)

①参加者について

一般 90名

男性 65名 (72.2%)

女性 25名 (27.7%)

発表者 3名 (センター職員除く)

*今回の報告会は討論会も予定されており、多くの方に参加いただきました。調査報告のみならず、発表者の方々の考えを聞く機会となり、参加者数につながったのではないかと思います。

②参加者住所 (一般90名中)

県内: 71名 (78.8%)

和歌山市 10名・橋本市 33名・紀の川市 11名・岩出市 4名・海南市 1名・かつらぎ町 4名・九度山町 2名・那智勝浦町 1名・不明 5名
県外: 18名 (20.0%)
大阪府 9名・奈良県 8名・兵庫県 1名・不明 1名

*県内は橋本市での開催ということで、橋本市から参加者が多く、県外からは、大阪府に次いで奈良県からの参加が多くありました。五條市についての発表や石

野先生の講演が参加のきっかけになったようです。

③参加者年齢 (アンケートより)

20代 4名・30代 3名・40代 2名・50代 14名・60代 14名・70代 12名・80代 2名

*多いのは50代・60代・70代以上の男性で、参加者の約半数でした。今回は20代・30代という年代層にも参加者が増えました。女性の参加はやはり少なかったです。今後、女性ならびに若い世代に関心を持つてもらえる企画・広報が課題となります。

④アンケート集計(回答数51名)

◆このイベントをどこで知った?

新聞: 8名 ポスター: 5名 知人: 8名 センターHP: 2名 案内のチラシ: 7名 ラジオ: 1名 その他HP: 3名 県文化財研究会: 2名 橋本市歴史研究会: 1名

◆イベントの参加のきっかけは?

和歌山の歴史に興味がある: 35名 発掘調査に興味がある: 33名 セン

ターの行事に関心がある: 9名

*「知り合いの先生の発表を聞きたい」や「講演内容に興味がある」といった意見も頂きました。

◆イベントの内容は?

おもしろい: 3名 まあまあおもしろい: 11名 普通: 13名 あまりおもしろくない: 1名 おもしろくない: 0名 無回答: 3名

◆今後この様な企画に参加する?

参加する: 5名 興味のある内容なら: 32名 時間があえば: 15名 近くなら: 1名 その時考える: 1名 無回答: 1名

⑤みなさんの声(アンケートより)

●よかった点

- ・本日のようなイベントを続けてくれればうれしく思います。
- ・弥生文化に興味を持ちました。
- ・流域を知る上で大変参考になった。
- ・資料のカラー写真が分かりやすかった。

●悪かった点・難しかった点

- ・スライドの活用を。
- ・高齢者が多いので、ゆっくり話された方がよい。
- ・考古学の専門用語や地名に使われた漢字にルビをふって下さい。
- ・ポスターと会館の案内の名称が違っていた。(報告: 津村)

■紀州の歩み

「(財)和歌山県文化財センター

速報展

今年、17回目を数える「紀州の歩み」を、平成19年6月18日から8月17日までの間、きのくに歴史探訪館で開催しました。西飯降Ⅱ遺跡出土の絵画土器や、野田地区遺跡出土の平安時代の犁(からすき)など、昨年度の発掘調査成果についての展示でした。

今回は、土・日・祝日も開館してより多くの方々に見て頂けるようにしました。小さな展示室ですが、間近に遺物を見ることができて、来館された方に喜んで頂けたのではないかと思います。(津村)



■展示解説風景

コラム 【考古学の散歩道14..伊都郡の古代寺院と瓦】

伊都郡は律令制のもと、畿内に位置づけられ、大和国宇智郡に隣接することなどから、中央文化の影響をうけやすい地域でした。現在、伊都郡内の古代寺院は橋本市の古佐田廃寺(浄泉寺)・神野々廃寺・名古屋廃寺とかがつらぎ町の佐野廃寺の4か寺が知られています。

伊都郡内の寺院では本薬師寺式とよばれる軒瓦が出土することが特徴といえます。本薬師寺式軒瓦は大きく2つに分けられ、1つは外区内縁に珠文、外縁に線鋸齒文をめぐらせる単弁蓮華文軒丸瓦、もう1つは外区は同じで複弁の蓮華文軒丸瓦です。軒平瓦は偏行唐草文(唐草文)が一方から他方へえがかかれ、左右対称にならない文様を瓦当文様としています。伊都郡内で出土する本薬師寺式の軒丸瓦はすべて複弁の蓮華文軒丸瓦であり、となりの那賀郡・西国分廃寺では本薬師寺と同型(同じ型で作られた瓦)の単弁蓮華文軒丸瓦が出土しています。また、佐野廃寺では佐野廃寺式とよばれる独自の瓦を作っていることな

どから、伊都郡内でも中心的な寺院であったことが想定できます。

そして、宇智郡(現在の五條市)に本薬師寺の瓦を焼いた牧代瓦窯があります。この牧代瓦窯では偏行唐草文軒平瓦などを焼いて、藤原宮や本薬師寺に供給していました。それとよく似た瓦が伊都郡の古代寺院でも出土しているのです。

また、『西大寺縁起』にみえる「薬師寺旧流記資財帳」のなかに、薬師寺の所有する野山として紀伊があげられています。このように、本薬師寺式の軒瓦が伊都郡の古代寺院に分布する背景としてこれらの寺々の造営者が本薬師寺造営に協力したことを示すとも考えられます。紀ノ川上流域にあたる伊都郡は豊富な木材と水運を利用して、建築部材や窯の燃料を供給し、あるいは瓦生産をおこなっていたのかもしれない。その結果、本薬師寺式の軒瓦または、瓦当文様の下絵のようなものがもたらされたと考えられることもできましよう。



伊都郡出土の本薬師寺式軒瓦

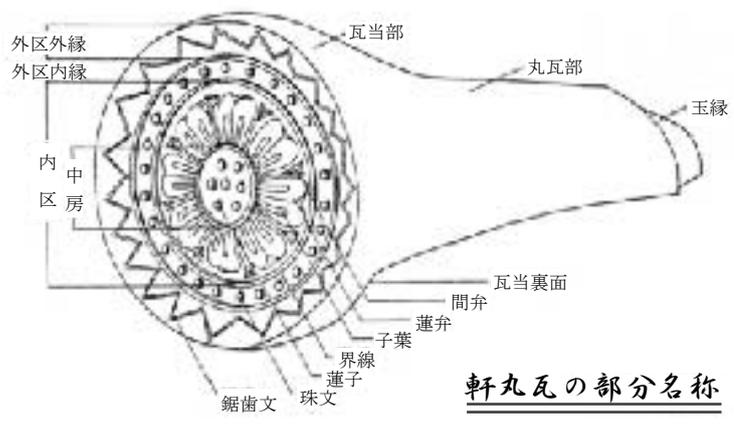
古佐田廃寺

神野々廃寺

名古屋廃寺

佐野廃寺

(手島)



軒丸瓦の部分名称

風車 第38号

平成19年10月31日 発行
(財)和歌山県文化財センター
〒640-8404

和歌山市湊571-1
Tel : 073 (433) 3843
Fax : 073 (425) 4595

e-mail : maizou-1@wabunse.or.jp
URL http://www.wabunse.or.jp